



(公財) 山階鳥類研究所

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



福島第一原子力発電所事故による鳥類の生息環境への影響調査

2011年に使用されたツバメの巣を調査したところ

全国21都道府県中、1都12県の巣から放射性セシウムが検出されました

- ・福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射性物質による鳥類の巣の汚染状況を把握するため、2011年に繁殖したツバメの巣を日本全国から採集し、巣材に含まれる放射性セシウム（Cs-134 および Cs-137）を測定しました。
- ・全国21都道府県から集められた197巣のうち182巣について測定した結果、1都12県の巣から福島第一原子力発電所由来の放射性セシウムが検出されました。
- ・福島県内のすべての巣から放射性セシウムが検出され、Cs-134とCs-137の合計の濃度が最も高いものでは90,000Bq/kgでした。
- ・巣の放射性セシウム濃度は営巣地周辺の土壌中の放射性セシウム濃度が高い地域ほど高い値でしたが、同じ地域内でも巣のセシウム濃度にはばらつきが見られました。
- ・今後は引き続き巣の線量変化を調査するとともに、ツバメの繁殖成績の変化の有無を記録して、汚染との関係を考察することが必要と考えられます。

ツバメ

(スズメ目ツバメ科)

日本には夏鳥として、奄美諸島以北の農耕地や住宅地に渡来し、人家の軒先などで繁殖する。巣は泥土や藁と自分の唾液を用いて椀型に作る。



収集されたツバメの巣



採集された2011年繁殖のツバメの巣の採集地

×は福島第一原子力発電所。円は、内側から同発電所からの距離20km、30km、50kmを示す。枠内は福島県内の拡大図。
(岩見ほか(2015)日本鳥学会誌64(1):63-69.[右欄枠内の論文]より)

※ 今回の結果で得られたツバメの巣に含まれる放射性セシウムの濃度は、通常の生活を営んでいる限り、人体に直ちに影響が出るレベルではありません。

本調査の結果は、下記のとおり、日本鳥学会の論文誌「日本鳥学会誌」64巻1号(2015年4月22日発行)に発表しました。
岩見恭子・小林さやか・柴田康行・山崎剛史・尾崎清明。
2015. 福島第一原発事故直後の2011年の繁殖期に利用された日本全国のツバメ *Hirundo rustica* の巣の放射性セシウム濃度の状況. 日本鳥学会誌64(1):63-69.

※このプレスリリースに使用した写真のデジタルデータをご希望の方は下記(平岡)までご連絡ください。

【本件についての問い合わせ先】

(公財) 山階鳥類研究所 広報主任 平岡考
自然誌研究室 岩見恭子
Tel: 04-7182-1101 FAX: 04-7182-1106
(国) 国立環境研究所 環境計測研究センター 柴田康行
Tel: 029-850-2450

本調査は、三井物産環境基金2011年度東日本大震災復興助成を受けて、山階鳥類研究所と国立環境研究所の共同研究として実施しました。巣の提供ならびに、巣の情報を寄せてくださった皆様、巣の採集にご協力いただいた皆様、福島県をはじめとする日本野鳥の会各支部の皆様、継続的に調査に協力して下さっている日本野鳥の会郡山支部の皆様にご礼申し上げます。